



里見八犬傳

第九輯

卷一



遠
709
49



曲亭馬琴著

明治三六年
十月九日
購求

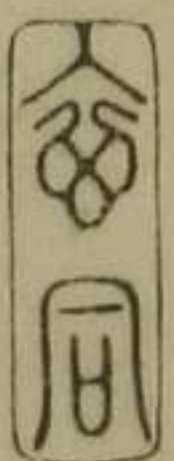
第九輯

八犬傳

東京名山閣版

遠門
號 409
卷 49

八犬傳第九輯自叙



在昔自室町氏走鹿諸侯割据不稟武斷
 於幕下大以駢吞小強以威服弱是以蝸
 角力戰無所不勉狼貪蠹食各不知厭當
 是之時田夫植矛而耕耘山婦掛弓而紡
 織人情都賢勇悍不厚於忠孝好名忘死
 屠城薪骨以為愉快且也每莅軍陳為勇

八犬傳第九輯卷一

東京名山閣

名以知于敵改姓異名欲不與衆同者間
 有之所謂若鷄北六花氏吉見八谷黨里
 見八犬士江子七馬九牛十勇女大内十
 杉黨上秋十五山黨朝倉十八村黨及山
 中狼之々野中牛助不遑救舉也其名所
 載軍記事實多不詳素是史闕文歟以類
 想像此則暴虎憑河之勇已矣蓋戰國澆

漓士風武勇有餘而文學不足徒倡異好
 奇為俗如此嗚呼野哉野哉文武猶花實
 也味見其花惡得其實耶故孔子曰有文
 備者必有武備若夫其勇有餘而一文不
 通則其行侏離譬如沐猴之戴冕與彼楚
 人兇暴又何異焉由此思之三綱無道離
 離世行似獍梟者雖有記傳實錄而不足

見矣。是吾所以作八犬傳也。然而今之所
 傳非古之八犬士事也。非古之八犬士事
 猶且曰里見八犬士其故何也。野史用心
 假彼名而新其事於是乎。善可以勸惡亦
 足懲果乎。君子尋文外隱微而解悟獎導
 深意婦幼代一日觀場而不覺春日秋夜
 之長云因茲刊行書賈利市三倍不思作

者之閑與不閑年徵月責所彫鏤五十有
 餘卷于此既而至第九輯意匠漸疲腹稿
 有限結局團圓且近抑童蒙等身之書於
 稗史所罕閱者俚指可復俟輯末之出焉
 天保五年長月之吉題于著作堂東園菊
 花深處

蓑笠漁隱



董齋盛義書



八犬傳九輯卷一

天保五年

南總里見八犬傳第九輯上套總目錄

壹第九十二回 二犬復讐始自本輯第一卷 孤忠携鑣訟眾惡

第九十三回 復讐之二在本卷 隔川孝嗣演志

貳第九十四回 復讐之三在第二卷 坐轎守如救主

高畷板橋道節放戰馬 五十子城信乃留姓名

第九十五回 復讐之四尚在本卷

梟頭鎧忠與凱旋 鼓盆悼定正知過

第九十六回 復讐之五又在第三卷

管領容讒疑良臣 御士仗義俟大敵

第九十七回 房總話說在本卷

良將不征而地廣二總 兇賊無心而自訴積惡

四第九十八回 素藤發迹始自第四卷

盜從者偷走被盜戮 宿賊巢強人免賊難

第九十九回 素藤發迹之二在本卷

素藤聽鬼語施黃金水 遠親惑邪說鬧館山城

第一百回 素藤發迹之三尚在第五卷

舊黨應招土民益憂 返覓異術美人彌奇

第一百一回 素藤發迹之四又在本卷

老尼薦計舊祠新茸 逆將樹人公子喪衛

第一百二回 里見侯征賊始自第六卷

伏姬顯靈補破敗 義成分兵征逆賊

第一百三回 犬江神童再出世在本卷

里見源老侯富山吊亡女 犬江親兵衛高峰拉勅寇

第九輯上套六卷總目錄終下套六卷共十二卷陸續刊行



其由權頭
素藤

八百比丘尼
妙椿

あゝ波のよるへ乃
 険ふかひのあれと
 みるをあやふ死
 あまれたとぢひ
 雷水

八代傳九郎卷一

五

文楽堂藏



神童甫九歳
 筋力捷成人
 不羨甘羅敏
 勇且唯得仁
 著作堂

大江親兵衛
 仁

平田金作
 与冬

砥時願八業堂

八代傳九郎卷一

文楽堂藏



花ののぬ
 みまかしの
 姫あはれ
 とたまり
 世あはれ
 危玉同

伏姫神灵

仙世の御

東六郎辰相

とらぬ

八代傳九郎卷一

六

○文溪堂藏



創業尚義 守文弥賢
 富有房總 九世延延
 頼鳥齋散仙

里見義成朝臣

杉倉武者助

直元

八代傳九郎卷一

○文溪堂藏

佐渡相川人石井夏海氏者予故人也。山海隔絕不相見。二十有餘年于此。客歲偶有鴻翅其書曰貴著八犬傳一書新奇絕妙。世人所知。我孤嶋亦年年流布。雖老圃翁公樵夫鑛匠而未閱為羞。如僕秉燭不知飽愛玩與米石一般。因而為庶幾附驥之僥幸。呈閱賤咏二三。長歌三伏乞賜筆削見許。載諸後輯。則生平望足矣。於戲舊故情願不可辭。然若其長歌無餘楮可錄。即取二三短歌以附載焉。歌曰。家々の肴手やうのまゝに人夜をのほのめけ門のぬかき

いぬのぬかきの犬のまゝにひし系なむむ筆のりく綾千はる君かき
あつひちりまをるあとのまゝをんえきく宛めてたしとほのま統渡人

右夏海氏所咏其第二歌則取今昔物語載白犬吞繭而鼻中吐絲故事云。與本傳第七輯目錄欄內所圖蓋藏紙糊狗即同意。蓑笠陳人又識

南總里見八犬傳第九輯卷之一

東都 曲亭主人編次

第九十二回 二犬路と分ちて一犬と資く

孤忠鑣小携りて衆惡を誅ふ

文明十五年癸卯の春正月二十一日の秋明大阪毛野瀧智は翌年の宿望時至りて父瀧度の雙喜りけ。籠山逸東太縁連が主君扇谷定正小説薦めて那小田原北條家密謀の使を奉りて副使とせしむ。籠山既清越杉路二峯鰐崎悪四郎猛虎們のあらし大石憲重の家臣に仁田山平五共侶小伴當許は從へて五十子の城内より今朝首途の行列正小既朝日の昇る時候武藏州品草と大木林村の回る鈴茂林をてまよける。波打際を等着て路の傍の樹陰より立顯れ々名告かけて携りける鳥此用銃りて先小杖を縁連の馬の曾頭打撃を走菟ら。笠山の若黨四名を殺伏する。その隙縁連短銃を引提進退場を揣りて田路の方

退く。毛野の血刀打揮々々。一町有餘趕らげ。却是まの第八輯の編末。見えざる。事々。這
 果不縁返く。文と續は詞を連ひ。あれより後と具あま。看官徐不聴ねり。介程は縁連ハ毛野が
 勅勇。武藝の精妙。既ハ本事と知りぬ。折と躬方。匿かかぬ。鯉崎。雷門の二の隊。越
 杉仁田山の後陣あり。助剣せられんと肩を。姑且時と根え。與不逃るも。退れ。毛野の只是
 若鷹鳥の野邊。雉子と趕ふ似。蓬。返せと喚。檝々々。間近く。か縁連位とえり。水
 男。畔る。榛樹を。看合。り。立。停。り。眼と瞪。り。聲。高。き。ふ。を。れ。檻。兒。狼。藉。既。ハ。汝。不
 知。れ。如。我。青。く。し。時。石。濱。き。故。主。の。密。誑。黙。止。さ。ぬ。栗。飯。原。首。胤。度。と。敷。栗。果。よ。る
 といあれ。胤。度。獨。子。多。少。年。栗。飯。原。夢。之。助。い。そ。母。親。と。共。保。ふ。當。年。死。刑。ハ。處。せ。れ
 去。世。の。風。聲。ハ。傳。々。り。任。れ。ハ。又。那。胤。度。ハ。孩。兒。の。あ。ん。該。る。介。と。その。子。と。偽。稱。我。を。冤
 家。と。罵。り。は。狼。藉。ハ。及。ぶ。這。那。共。胡。論。意。ハ。汝。ハ。瘋。病。人。狄。然。也。敵。の。間。諜。見。ぬ。
 我。と。敷。も。ち。欲。ま。る。術。拙。く。て。時。宜。と。知。を。蝗。螂。の。芥。と。り。て。隆。車。ハ。向。ま。似。ら。最。鳥。許。と。

の。け。の。さ。と。ま。構。へ。噫。思。る。縁。連。我。胤。度。の。子。る。ま。ハ。多。勢。の。敵。ハ。憚。り。汝。と
 罵。れ。る。毛。野。ハ。謀。ハ。身。ハ。構。へ。噫。思。る。縁。連。我。胤。度。の。子。る。ま。ハ。多。勢。の。敵。ハ。憚。り。汝。と
 雌。雄。決。せ。ぬ。近。く。找。ま。り。听。ね。過。り。光。陰。あ。り。た。我。母。ハ。谷。側。室。也。我。身。ハ。懐。胎。三。稔。後
 相。摸。洲。足。柄。多。大。阪。村。老。生。れ。り。軀。て。地。方。の。名。と。取。て。大。阪。毛。野。胤。智。と。名。告。る。を。知。る。人。四。千。と
 とも。天。の。照。覽。見。神。仙。の。冥。助。と。仰。ぐ。三。年。の。夙。望。我。未。生。り。兩。個。の。讐。言。あり。そ。一。個。多。子。栗。家。奸
 臣。馬。加。大。記。常。武。を。往。る。已。支。土。朝。の。首。夏。五。月。望。の。夜。堅。を。碎。く。石。濱。多。對。牛。樓。也。從。類。多。て
 思。ひ。の。隨。ハ。敷。も。捕。ら。殘。る。冤。家。ハ。汝。の。今。ハ。追。れ。ぬ。天。の。具。罰。狐。疑。ハ。せ。刃。と。受。と。と。言。語。急
 迫。く。穴。君。め。て。敷。も。と。找。む。勇。士。の。大。刀。風。縁。連。聽。得。と。なる。復。回。答。の。違。る。鎗。と。捨。て。耳。の。ハ
 一。上。二。下。修。煉。の。突。戰。胸。前。鎗。を。見。ぬ。槍。の。尖。頭。ハ。雲。峰。の。腰。より。雷。光。の。地。上。と。走。る。鳥。異
 る。毛。野。の。物。も。世。ハ。受。流。し。又。ち。拂。ひ。て。連。ハ。找。む。刀。光。ハ。湖。水。ハ。流。る。月。影。の。波。の。連。々
 狂。ふ。似。たり。方。是。三。龍。九。雷。不。鬪。ふ。時。霏。々。と。表。て。金。鱗。降。り。兩。虎。幽。谷。ハ。桃。吐。時。颯。々。と。劫。風
 起。る。與。不。疎。幽。谷。ハ。似。たり。坐。坐。時。を。あ。れ。武。術。の。旨。低。孝。義。勇。敢。兩。多。億。萬。人。不。焦。也。

た。毛野が敵多き足るりも。縁連を腕乱れて。浅夷四五ヶ處負多し。茲と先途と戦ふ。縁連と相距ると。二町許りければ。初よりして。那隊小遇を。縁連が伴當の。慥も逃走の。思ひ小原來。楹杵見と。され兵母續けと。喚りて。馬の拍れ前後。奔一。驀地は馳着て。これハ。縁連が。伴當四名。身首處を異ふ。と。馬共。侶ふ。小。登時。後れて。従ひ。來。る。這。副使。の。伴當。の。後。小。跟。り。立。か。つ。た。る。縁。連。が。奴。僕。の。追。小。田。の。畔。と。指。さ。り。て。二。位。老。爺。那。商。せ。大。阪。毛。野。と。名。出。り。た。る。狼。藉。見。の。那。里。不。在。り。と。報。る。と。ち。听。く。猛。虎。既。濟。鞆。を。扣。え。信。と。ん。と。ん。と。原。來。件。の。楹。杵。見。の。尚。立。去。ら。せ。程。近。く。縁。連。數。々。兵。母。と。西。聲。劇。く。罵。聲。を。馬。を。伐。り。て。縁。連。と。相。次。負。も。欲。ま。れ。も。去。向。ハ。陝。水。田。の。畔。也。一。騎。打。る。進。退。不。便。の。安。危。と。茲。ハ。料。り。難。く。左。右。多。く。も。找。り。ぞ。然。と。て。甲。と。踏。渡。ら。せ。も。劔。も。甘。薄。水。の。底。見。ぬ。れ。ど。泥。

深けれ人馬の脚へ立く。誰何ぞ。と。躊躇。を。それ。無。斬。る。縁。連。の。下。鎗。も。さ。り。け。ん。屢。毛。野。不。敵。も。惱。ま。れ。て。既。ハ。危。死。光。景。を。見。た。大。家。氣。と。同。む。そ。中。ハ。猛。虎。怒。り。堪。え。り。け。ん。意。に。主。敵。も。あ。り。て。電。門。主。を。あ。ら。せ。左。右。の。路。邊。に。も。と。廣。く。れ。多。勢。と。遣。下。和。殿。越。杉。仁。田。山。門。と。謀。り。合。は。せ。左。右。の。路。も。多。勢。と。俱。し。て。ち。寄。せ。あ。咱。の。獨。中。路。も。那。里。の。危。窮。致。極。す。先。々。と。の。い。つ。も。馬。と。因。り。と。兼。放。り。て。槍。奴。持。り。の。鎗。と。檢。合。り。袂。と。て。の。幅。三。尺。足。ら。ぬ。け。水。田。の。畔。の。前。の。似。く。足。不。信。と。走。り。ゆ。後。方。不。從。若。當。奴。練。皆。後。れ。と。楹。の。尖。の。一。粒。並。び。細。路。と。喘。心。り。不。續。け。け。余。程。不。三。隊。多。越。杉。駱。仁。田。山。晋。五。も。縛。の。異。變。と。知。り。て。馬。を。飛。し。來。不。け。れ。既。濟。も。亦。馬。を。寄。せ。て。那。三。方。も。癡。者。と。擲。捕。る。死。隊。配。と。亦。も。急。迫。火。速。の。進。退。駱。仁。田。山。晋。五。異。議。も。あ。り。と。名。隊。兵。も。あ。る。と。て。引。り。れ。る。左。右。の。畔。路。西。の。方。も。電。門。既。濟。東。の。方。も。越。杉。仁。田。山。隊。兵。各。又。三。十。名。先。不。扶。む。弓。の。筋。前。と。り。多。平。起。ッ。鳥。と。共。不。駭。く。白。路。馬。も。永。食。難。々。朝。國。の。風。者。指。針。と。を。翔。り。け。這。三。方。も。寄。る。大。敵。ハ。大。阪。萬。夫。の。勇。あり。と。も。脱。れ。ぬ。

志と思へを勢いよりの機... 既済一峯晋五の勢を東西より咄と嘯て直走り...
 西も東も去向の群... 稟塚の陰より思ひけさくも是りと一度突か
 ず鎧も既済一峯が馬の太腹鬮と串れて這那共必死の一聲嘶るるを倒るる...
 兩個の武士も共侶も反落されて男畔身と横へて仰て登時東西左右畔身...
 地と推倒して頭れも、兩個の勇士三條路の一對の崩成威の身甲は細條の臂縛筋鐵打る唇
 衣も奇物造の両刃の瑞昂を踏へるも、大又の鎧を引提て去回の畔と立塞ま、面魂も無敵の
 胆勇西と東に鼓耳と合して噫物々、兇奸黨が勢を肩ひ助劍之味何処と路をるる保あ
 べと豫より、男ふよりて這西の稟塚陰に埋伏して大阪毛野が復讐言の外余ら成る異姓の弟兄大
 甲小文吾悌順と喚做を猛者ぞ知る、汝汝電門鍋介をば陣外套の袖號に煙の字われ精し
 身と起して刃を受よと名告は罵れ、東も立る、一個の勇士も少なり、鎧を横へて汝越杉鉄鼓
 松鉄輾轉びと殺去要る、後より武士も馬と杖や大阪毛野が義兄弟大川莊介義任のあり、逃

とも逃さず、杖と殺去るとも、弥勒の世まで足と入る、兇處の、快く勝負を決せよと、勢も怯ま
 武勇の廣言、悔りて、身と傷れ、東西各一稍立向、既済一峯東馬と扣え、仁
 田山晋五も只一人の敵と思へ、懲丈不得、若黨奴隷と罵励と短兵急小較、んと左右の畔を左
 右の戦ひ五十子方の勢といへも、尚義勁勇和漢も稀多、這天去、鎧頭小誰、一個も當
 る、東西俱不足と乱して持る弓、箭も射る、白廷く、或は鎧と反飛され、胸を刺れて伏せ、或は
 刀と打落されて水田滾へるも、瞬間小俯累りて死者者十名有餘、その他刀瘡見、マツ
 けれ、西も東も辟易して逃る、不快、足更の山の水葉の散る、海邊邊を投て走り、借り
 程、西の頭人、電門鍋介、既済、小文吾と刃と交て、小要時、挑そりければ、大士の敵も不足
 のる、水田中、突倒されて起も揚、命を殞、隊兵、每驚、怖れて、皆一、辟、敗走、小文
 吾も、逃さず、韓盧、狐狸を驅る、似、息も、喘せ、趕る、けり、然、東の頭人、越、杉、駱、三、峯、の
 初、莊、介、馬、と、刺、れて、落、る、折、臂、と、傷、も、殆、痛、楚、堪、ら、ず、辛、ま、て、身、を、起、し、仁、田、山、晋、五



八代傳記卷之二

八代傳記卷之二

五



ふ 虎野の斬縁
と 又く連
戦た猛毛を

八犬傳九辯卷一

十一

文藝堂藏



八犬傳九辯卷一

文藝堂藏

兵侶不推捕綱を敷きんとせしふゆふも似ぞ突立られて更ふ深きと買へる逃る躬方二推倒
され刺晋五の馬踏踏れて骨折け死にけり。その中仁田山晋五の始りて馬ふをたてし
身の後隊は存るどと。莊介が鎧を避く連の躬方と找れかとも群る羊の角を以て猛虎を
突んとす。不似て向ふめい命と頼。逃るも都て血を浴びて皆四零八散する。晋五も楯も度
失し素も鞭拍て逃走る。莊介の不遣りトを勇る敵軍の立ち恥と知らず。飲刀武士汝ハ
晋五の戸出河原を我假首と斬梟る。仁田山晋五よりうろたへる鎧師も廟宇ありの知りぬ
那折戸田河原を戦死する。十條力二尺八分。與然雪めんと返せと罵辱をめて飛が似く起菟
よの晋五の胆を冷て馬駭らぬ。一所小在る心地と。連の鞭と鳴らる命を限り逃
たる。空下休題再説是より先縁連の毛野が刀風の烈し身ハ只危く覚し折る。陝田中の
畔路より鰐崎悪四郎猛虎が自餘の副使先を。暮地お接けあ。迫り喚る鼓耳も不竜山
主。名山則善山縁連が改。心強五子殿。正をの。御内を。數戰の功名揚揚。萬夫無當と喚る

鰐崎猛虎が来る。仇の甘く冤家と。身程知ぬ。一個の楯。兎虎の餌。大阪を。ら
屠る。隙の隙。虎の。自負。且走り且罵りて勢。猛虎と後。縁連が
連の。縁連の。毛野の。此。色。既。猛虎と後。縁連が
踏。刺。鎧。火。兒。の。外。丁。と。敵。の。刃。の。縁。連。の。鎧。の。纏。り。落。下。れ。て。敵。軍。の。腰。刀。を。抜
んと柄。も。掛。る。那。時。速。這。時。速。毛。野。の。一。聲。ツ。ツ。と。激。音。を。破。と。敵。軍。の。刀。の。電。光。縁。連。の。在
肩。突。折。ら。れ。て。苦。叫。び。果。然。勝。坐。撞。と。倒。れ。け。り。程。も。あ。ら。ぬ。猛。虎。の。朋。輩。の。仇。逃。さ。ざ。と。敦。國。猛。丁
と突。鎧。と。受。流。七。十。合。あ。ま。り。も。戦。ふ。大。刀。筋。至。妙。の。大。阪。お。殺。立。ら。れ。と。綱。と。書。け。猛。虎
焦。燥。で。閃。め。り。槍。火。も。野。の。身。と。反。せ。猛。虎。意。力。の。ま。り。と。空。突。あ。田。畔。の。様。の。伐。株。を
刺。串。で。放。馬。慌。て。放。さ。せ。毛。野。の。透。き。の。衝。と。寄。せ。刀。を。抗。て。丁。と。敵。軍。の。然。し。も。卷。の。狂。心。も。猛
虎。亦。眼。快。く。不。依。鎧。も。ち。垂。下。て。身。を。沈。し。大。阪。の。脚。を。巢。巢。と。踏。走。る。刀。を。裏。手。と。り。後。隊。を
引。か。し。引。楓。を。眉。上。高。く。掀。抗。ら。現。這。鰐。崎。猛。虎。の。心。術。を。直。ら。ぬ。幸。來。數。度。此。戦。場。を

一番も後れを合ふべからず。然らば、脊力に三十許人の敵して、船を馳せ、泉の親衛、鐵門を破り、義
秀、伯仲と云ふ本事の違ひ。吾械合て、義經の少少、大坂毛野を、その刃を拂隊とて
櫂柄を、爲体肉を、餓う。鷗の雛、棧を捉ふ異る。投殺さんと云ひ、人、掀る、依、那、這、而、二、回
持送り、矢、聲、耳、と、搦、投、擧、毛、野、の、宙、身、肉、肉、う、て、投、れ、托、地、と、蹴、修、煉、の、白、打、猛
虎、の、右、の、腸、骨、横、折、れ、所、の、痛、癢、小、雲、時、の、境、を、云、と、も、不、仰、反、身、之、轉、と、小、ね、り、登
時、毛、野、の、乘、り、搦、と、頸、と、搦、と、猛、虎、の、頭、影、を、左、の、勝、へ、程、も、も、の、鯉、崎、の、伴、當、約、莫、八
九、名、後、走、不、跟、從、と、考、這、光、景、は、驚、駭、謀、て、大、家、主、の、敷、せ、と、必、の、め、路、険、け、推、並、て、杖、も、
申、先、立、一、個、の、若、黨、刀、是、と、板、持、て、走、鬼、れ、と、程、毛、野、の、性、ま、左、の、若、黨、の、眉、間、を、酷、擊、
る、不、厭、夫、て、放、毛、右、の、小、石、を、搦、て、耶、と、聲、搦、托、地、と、擲、鬼、以、錯、毛、那、若、黨、の、眉、間、を、酷、擊、
摧、れ、叫、び、も、果、死、で、け、り、大、家、と、れ、舌、を、掉、ち、杖、を、難、方、を、程、毛、野、の、透、骨、臂、逆、小、石、を、合、
復、敷、も、投、術、の、驚、駭、を、立、る、目、の、若、黨、も、亦、咽、喉、を、敷、傷、れ、鮮、血、を、吐、け、れ、本、意、亦、怕、伴

當門の、味、を、激、と、逃、影、を、不、足、を、多、り、毛、野、の、然、も、を、あ、る、を、冷、笑、を、腰、を、搦、短、刀、是
ア、と、引、抜、け、及、復、さ、ん、三、回、搦、猛、虎、が、聲、と、又、引、柄、を、頸、搦、研、て、刀、を、拭、以、腰、帶、首、級、を、引、提、て
身、を、起、後、方、小、仆、ま、一、縁、連、の、折、ち、我、復、り、敷、馬、に、乘、り、腰、刀、を、是、り、と、抜、け、立、あ、る、聲、
ど、も、け、背、後、より、而、段、不、れ、と、と、敷、刀、の、光、り、身、を、反、毛、野、持、持、猛、虎、の、頭、を、受、任、
れ、る、舟、も、敷、を、又、振、抗、る、刀、小、先、を、首、級、の、敷、眼、縁、連、亦、眼、を、打、れ、叫、苦、と、毛、野、の、紅、血、を、程、
も、あ、る、を、抜、け、敷、毛、野、が、卷、火、鏡、短、刀、敷、れ、て、叫、び、も、あ、る、筋、手、を、縁、連、分、頭、顛、搦、地、
と、滾、落、て、軀、も、共、小、仆、ま、け、り、の、時、猛、虎、が、伴、當、の、皆、を、ろ、ろ、逃、亡、せ、り、更、か、近、く、敵、も、を、れ、け、毛、野、
除、短、刀、の、鮮、血、を、拭、以、腰、帶、收、め、又、猛、虎、と、組、折、指、刀、を、合、抗、て、も、推、拭、以、腰、帶、帶、て、飲、法、と、
去、て、四、下、を、る、小、這、田、の、解、大、は、棒、樹、の、伐、株、小、柄、枝、の、脩、く、ゆ、り、の、是、光、竟、と、獨、言、先、懷、よ、り
合、衆、の、亡、父、の、法、師、を、寫、着、る、小、卷、幅、を、も、載、推、開、て、件、の、棒、の、柄、枝、を、拭、而、冤、家、縁、
連、の、首、級、を、引、提、ま、る、水、田、の、氷、を、摧、て、赤、鮮、血、を、洗、流、し、那、伐、株、を、も、載、親、小

たけけん 自向て念するなり。往る寛正六年冬十一月馬加常武が奸計にて這縁連を殺せり。先考不滅の
 霊あらば今這血食を御食の常武一家の爲に血を吐きぬと云ふも、吾々の龍山縁連の名を變跡を
 埋めしもの今に至りて十七年天運を遂げ循環して死を復せざるを願ひ義母
 兄弟の縁を助け助する。比自共侶の影向して這血食を觀て生前の恨を養育て先大入と存一天堂の生
 ぶるひの弥陀佛弥勒佛と唱へ更亦実母調布の法師と念して復讐言の責任を訴る。孝
 子の誠心流れる隈も哀歎交吐お涙を拂ひもあまじ統四羅錦綉たるを忘れて姑且る合
 當の心を釋さるけり。浩処の楚然と近づく人の足响を毛野の急小入んれば是則別人を
 らる二天士莊介小文吾も登時毛野の邊へ小巻幅を巻收めて身起りて笑はれ寄るを
 邊へと斷絶へておを思ひけり。大田主大川主も俱不怪我いさるけり。故に厭いしと縁より
 けの復讐言を知られけん。御高き寛家の方人們が東西二條の畔路より縁連を接け東邊折和
 君們中途不埋伏と遮り留めて轍果しるを殘黨と趕れる。その支の爲体を適小目轍をあらはる。

某も亦縁連との闘戦の最中をければ訝り多し云云と支向ふ。建るといふ。既和君們的補助小
 より三方より敵を受て寛家縁連が爲の助剣を鯉崎悪四郎猛虎と號喚做を武士の槍法
 力量と之々の敵多しあはらるし。之をの漏さ敷果しと終縁連の首級を獲り。その折仇の
 伴當們の後走來を殺し開け亦某が投石敷れ駭怕れて一個を送り逃さる。余後近
 つ敵をよりの寛家の首級と云ふ小向を登り果す折和君們這里から來りて疑ひを釋く
 ともかく宿因錯で料も決りけり。便宜神の示現ふひ狹佛の利益をける。後今更
 謝する所を知れかへまも意外の再會を致し喜びし。うち思ふ。方一期の事い何さる亦あれ小
 復讐言の感嘆の外を誠の珍重とて諄復し。然るを演れ小文吾莊介の合笑を。點頭に
 如古思つる理り疑りも亦所以あり。既和殿を見られ。我々の那縁連を助剣せんとて。竟い
 本町の敵を東西不遠留め。那五十子の副使身へ。電門既濟越杉一山峯と號喚做を。這那
 二名を轍捕りて逃る。仁田山晋五們を透さ。連り不趕蒐る。晋五の騎馬の伴當們の皆

逃走の快けれ。往方も知ざるあり。然もとも兵法小弱冠の追ひつるをとの敵言もあきまれば。遠く歩糧らば趕棄て和殿の安危を知らず。欲しきうち連立かへり來ぬ折又七八個の敵のあひあひ目今和殿の傍々と報ひいふよ。そ思ひ合ぬ。他們的縁連猛虎們が伴當で和殿の投石小立足もろく。遠くも逃て來ぬるらん。那折然やと。知らぬもうちも。閑庭奴們をらぬ。我々二名推並ひて。路を塞ぎて突立々々。そ二四人と刺果たり。その餘は皆も逃亡。然。其首より引返と。言とまれ。是等の故方僅かへり來ると。和殿の與那助創。後へ。便宜の処も伏て在り。ある萬一の與那助。その義小及ぶる故。和殿の對面は約莫。けの進退は。大山大塚の謀。了。処も。愛を猜せし。獨大山道。即の智計より。和殿の。這里の四方より見直されて。長談。軍一が。卒る。那里の茂林。陰小退。して。送小意。末と。盡ま。て。よ。こ。こ。の。と。を。せ。送代の物語ら。い。木。水。の。大。川。と。舌。り。く。畹。を。大。田。の。辨。論。言。皆。意。表。ふ。

鬼神不測の隊配り。毛野の半信半疑を。今大村と秋葉え。亦その人のあやも。回もほく思ふ。現這里の甲申。敵の推寄來ると。あ。防戦の與便宜。あ。の。よ。あ。の。理。ろ。る。敢。異。後。せ。點。頭。く。原。來。和。君。們。の。と。あ。自。餘。の。大。士。も。我。與。俱。力。を。勤。せ。ん。と。隊。配。あり。い。の。く。奇。然。然。那。首。へ。退。して。送。小。餘。談。と。盡。ま。て。と。心。を。ら。ち。連。立。て。鈴。の。茂。林。邊。小。赴。く。程。朝。日。を。影。刺。昇。り。て。辰。の。初。め。の。け。り。看。官。熟。思。ひ。か。え。の。日。毛。野。莊。介。小。文。吾。們。の。敵。と。三。処。の。挑。戦。は。皆。是。同。時。の。ふ。り。て。長。譚。緩。語。の。上。あ。の。あ。ら。各。々。其。首。小。刃。と。交。へ。勝。者。の。捷。履。者。の。輸。奔。者。の。走。り。逐。者。の。趕。り。の。都。々。小。要。塞。時。の。多。れ。も。是。を。文。小。綴。ると。死。の。形。容。あり。語。勢。あり。二。方。四。方。と。一。緒。小。合。し。て。寫。し。給。へ。記。あ。ら。ぬ。れ。は。似。ま。長。く。る。れ。と。任。い。あ。ら。し。と。あ。あ。ら。ん。飲。今。小。初。以。て。さ。ら。只。瞬。息。の。度。も。數。萬。言。小。綴。れる。則。是。文。字。小。在。り。又。數。百。年。の。長。々。し。記。を。數。行。の。筆。小。約。舒。る。も。亦。是。文。字。の。う。ふ。あ。で。を。思。ふ。目。前。の。理。と。推。ま。者。の。古。語。小。云。琴。柱。小。膠。ま。る。

一。話除般系。介程小仁田山晋五の大川莊介不緊しく趕れ。既小危ふるけを。
幸ひ不しく乗る馬の脚強ければ逃延る。間迫ふる。快五十子へ走りかへてより。
注進まげれと尋思とあつる不走る馬。馬少なる一個の伴當喘々後かく。主僕谷山の頭
も走来不ける程。一葉取般茂樹間より。誰と云知む。我の足前晋五左の肩に射られて馬より
撞と落し。伴當の吐嗟とをうり。駭慌て逃んとし。四下とらる程。もあま。又突然と
其の二の笠前足と射られて仆れり。登時伴の樹蔭より。雑兵四五名走り来り。仁田山主
僕と起しも立ま。とや斬々と索と撰て宙吊あておく。おたる。そが中。一個の雑兵晋五が
馬の駭れ走る。昔奪地不趕。迫着て鉤索閃りと投撰て。馬足不勝多牽。駐め人馬ひと
多く生拘の用場佳妙と。悄語して。一葉時。もあま。皆共。侶不故の樹蔭へ退たり。話
分。兩頭。是より先。五十子の城内。緑連并。既済。一峯猛虎。們が伴當の逃走。快り。の
幾名。軟漸々。かゝる。多て。中途の異変と。訴ると。有司。們敬馬。を。うら。所。ふ。嚮。高。鈴。の。茂。林。の。頭

おて。大阪毛野。亂智と。夜喚。做る。一個の。魁。松。見。埋。伏。し。七。樹。蔭。不。在。り。正。使。竜。山。免。太
夫の。舊。名。と。喚。ひ。け。父。仇。多。免。下。と。推。乃。う。ける。鳥。背。銃。の。竜。山。生。れ。兼。る。馬。と。鼓。を。殪
去。反。落。さ。せ。て。刀。を。接。て。走。り。奇。る。折。竜。山。の。若。黨。二。四。名。推。隔。捕。縛。て。連。り。不。防。に。戦。ひ。と。那。大
阪。の。物。も。せ。せ。矢。庭。の。四。名。と。殺。伏。し。居。り。け。れ。も。竜。山。生。れ。幸。ひ。不。と。恙。存。れ。れ。稍。身。絶。下。鎗。を
引。提。て。水。田。の。畔。不。退。に。て。趕。来。る。毛。野。と。戦。ふ。程。不。迫。後。方。不。緩。歩。せ。る。副。使。の。甲。し。せ。知。り。て。俱。方。と
勦。せ。ん。と。馬。と。飛。と。来。不。け。れ。も。路。狭。け。れ。找。ひ。不。便。多。故。不。猛。可。不。隊。配。を。二。方。不。立。り。た。れ。野
崎。生。れ。中。路。より。又。雷。門。越。杉。仁。田。山。の。入。り。左。右。の。畔。より。馬。を。找。め。て。數。も。果。さん。と。言。じ。し。不。思。ひ
か。け。る。左。右。の。畔。多。又。那。毛。野。助。劍。の。猛。者。二。名。あり。その。一。個。大。甲。小。文。吾。一。個。大。川。莊。介。と。名。告
であ。れ。這。那。左。右。齊。月。一。起。り。鎗。り。て。越。杉。雷。門。の。馬。と。刺。殺。し。立。塞。り。て。其。勢。不。挽。も。是。戦。を。ら
敵。の。二。名。不。過。され。も。俱。不。多。煥。鍊。の。猛。者。多。不。一。騎。打。る。田。の。畔。多。且。三。方。不。別。れ。る。御。方。の。隊
配。り。合。期。を。信。れ。不。捷。と。攪。んと。輒。か。さ。う。も。い。は。先。快。く。夏。の。趣。と。報。あ。ら。ん。と。思。ふ。さ。う。り。不。ま。り

うへ。あきまらむ。いとちそく。都て此ま差池なれば。大家俱胸を淡く。還りぬと喘々注進ある。その人邊速ありと云ふ。都て此ま差池なれば。大家俱胸を淡く。主君の言上を登時扇谷修理大夫定正主の件のうせ打聴て謀定る氣色もよく。その亦不慮す。非除その極極見們的暴たる野豬の勇ありとも。躬方の足勢不敵せん。況窮崎惡四郎猛虎の器械合せて向ふ前多。千人の旅力あり。且既済一峯の皆軍陣は熟言のめ。あれは加ふ大石の陪臣仁田山平五あり。然百餘個の士卒が三個の敵を感怕れて不覺と取るべくも。あは程もろく殺鎮めて。再度の注進ある。ん。遮莫用心の與るれば。加勢の士卒を調へて後の便宜不儘せよ。と。支輒氣不命せらる。有司們これを兼りて。忠心あるのめ。各肚裏不忠ある。その大坂とやらが與縁連の親の仇を。六寡を。と。衆敵も。神明佛陀の冥助も。ん。縁真の復讐言も。隣國敵地の回者も。縁連其首不命と殞。他は。只顧票一。屠めて。既不使と奉りたる。北條家と和議是より破れん。然つと。え。物怪の幸ひ。是は。不僥。する。ま。あ。縁連。敷。れ。よ。と。躬方。此。輪。を。祈。る。も。あり。又。縁連。と。同意。の。め。の。大。々。る。ま。ま。敷。馬。噪。ど。を。檻。心。

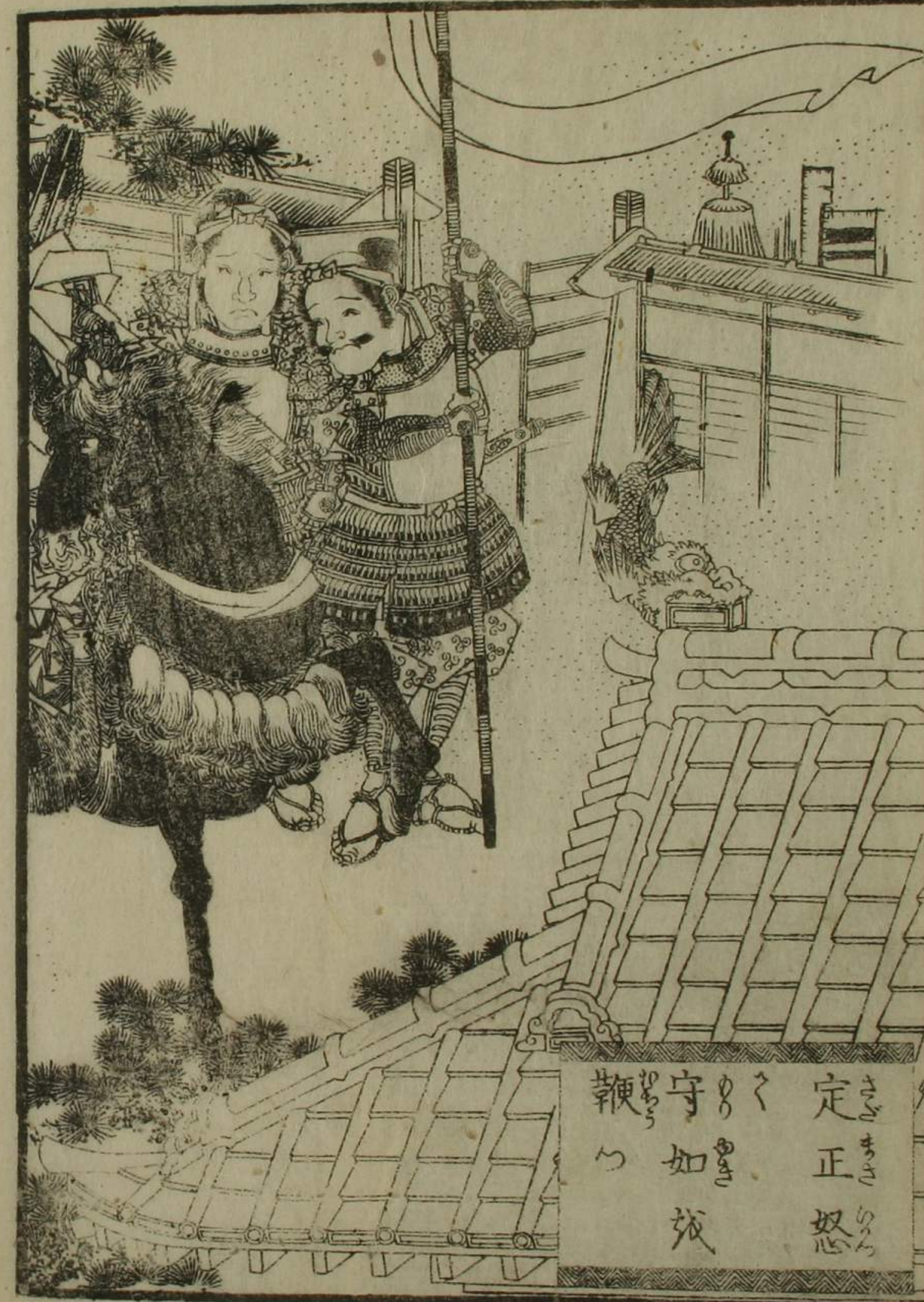
兒們の二名を救ふ不伏兵のヨリ。縁連。其。首。不。命。と。殞。他。は。只。顧。票。一。屠。め。て。遇。さ。後。悔。胸。を。噬。む。も。甲。斐。る。を。や。か。ん。下。知。わ。れ。か。と。咳。く。の。め。も。ヨ。ク。け。の。左。右。方。程。不。那。伴。當。の。敷。漏。れ。さ。れ。方。の。又。幾。名。飲。各。痛。疾。を。肩。る。が。皆。五。十。子。の。城。逃。て。多。有。司。們。と。轄。る。縁。連。并。小。猛。虎。の。那。大。阪。毛。野。不。敵。も。れ。又。電。門。既。済。越。杉。一。峯。大。川。莊。介。大。甲。小。文。吾。の。殺。さ。る。獨。大。石。の。家。臣。仁。田。山。平。五。酷。く。莊。介。不。理。れ。か。ど。も。兼。る。馬。の。駛。り。に。命。を。限。り。不。兆。た。る。が。恥。て。這。里。の。立。よ。り。傳。馳。て。大。塚。還。り。縁。連。の。め。の。知。ら。ざ。れ。と。再。度。の。注。進。支。分。明。不。敗。此。の。よ。り。皆。定。正。を。修。羅。と。勃。然。と。て。奴。不。堪。を。忽。地。其。耳。の。立。て。そ。の。安。ら。ぬ。る。を。縦。電。山。免。大。夫。の。大。阪。奴。の。仇。と。我。使。を。奉。り。て。小。原。赴。く。首。途。不。他。の。ま。る。副。使。們。を。て。を。あ。當。黨。の。皆。敷。も。し。と。そ。の。依。他。擲。走。る。武。門。の。恥。辱。隣。國。不。守。を。必。笑。れ。ん。料。不。那。奴。們。勇。悍。と。い。ふ。も。數。刻。の。苦。戦。小。身。三。疲。れ。て。い。ま。遠。く。立。去。る。べ。く。我。み。づ。く。趕。鬼。て。搦。捕。と。誅。戮。せ。ん。兵。毎。々。馬。を。牽。ひ。ぬ。と。せ。げ。や。と。敦。圍。た。る。目。取。も。劇。に。君。命。誰。う。一。個。も。礙。議。



十九

文安堂藏

〆〆〆



定正怒
 守如城
 鞭心

文安堂藏

去に乗りぬと云々。甲標る間もあらず隊の軍兵その勢約二三百名。夏武具不器械合て成廣
庭。羅羅列ら。當下大将定正。純絳錦の戦袍。紫糸絲の好葉。手鏡。尚可已持。さ。透回
由るく着下あ。龍頭の兜の緒を締め。藤巻と名ける。當家重代の太刀。小虎皮の尻鞘
拭。腰。跨。九寸五分。刺。七首。挿。副。三尺五寸。小眉。尖。刀。脇。挾。毛。精。好
奴袴の。あ。げ。さ。や。と。音。ま。と。裾。短。小。穿。做。方。勢。以。猛。く。出。て。来。る。縁。頬。近。く。幸。居。る。馬。の
閃。り。と。ち。無。り。と。と。ち。ち。と。せ。れ。程。縁。連。們。が。横。死。の。ち。な。く。後。堂。へ。傳。え。し。く。
鮮。目。の。前。の。仰。ふ。よ。虚。実。を。尋。ず。ま。う。さ。え。と。河。鯉。權。佐。守。如。が。来。ふ。け。り。定。正。大。阪。毛
野。們。を。み。ぐ。う。征。伐。あ。ん。と。と。と。と。陣。の。折。り。け。れ。守。如。吐。嗟。と。ち。牧。馬。に。て。迹。不。跟。跡。
廣。庭。を。走。下。す。定。正。の。馬。の。鑣。面。を。推。駐。め。詞。急。迫。く。諫。る。ま。う。物。体。を。我。君。へ。物
多。狂。ひ。ふ。ら。ん。願。ひ。ぬ。奴。等。を。鎮。め。ぬ。ひ。く。稟。ま。う。と。聞。召。れ。よ。那。縁。連。六。團。を。賣。り。身。に
利。と。揣。る。佞。人。る。れ。も。然。と。知。召。れ。さ。し。と。壁。言。月。の。明。る。も。楓。る。浮。雲。不。掩。れ。て。遂。光。り。を

う。み。と。漫。他。が。便。毎。利。口。不。説。或。さ。れ。あ。ひ。く。專。那。議。を。任。さ。れ。て。今。番。北。條。氏。と。宛。和。議
只。是。千。慮。の。一。失。秋。素。より。良。善。の。死。計。策。よ。ひ。る。の。故。を。否。一。言。を。め。の。忠
臣。も。遠。ざ。り。れ。又。縁。連。不。媚。も。の。功。を。時。に。為。る。鮮。目。の。前。も。是。等。の。心。苦。く。思。召。せ
か。の。女。調。の。誚。と。憚。り。と。諫。難。さ。る。ま。う。べ。況。數。を。取。守。如。と。が。稟。を。折。を。さ。り。と。
ら。ち。歎。然。て。の。ま。い。り。が。今。の。折。も。及。て。も。犯。し。て。諫。め。ま。う。と。忠。義。の。本。意。を。差。不。似。す。の。ま。う。
知。召。れ。と。那。縁。連。の。千。葉。家。の。甘。舊。臣。章。山。逸。東。太。と。喚。れ。折。馬。加。常。武。の。哄。誘。され。千
葉。家。の。忠。臣。栗。飯。原。首。と。杉。戸。の。松。原。を。詐。欺。り。害。と。逐。電。し。て。下。野。世。と。潛。ひ。那。首。の
妖。人。假。赤。岩。一。角。が。徒。弟。と。ま。り。と。その。大。刀。筋。と。受。し。ま。う。假。一。角。の。吹。擧。ま。う。長。尾。景。春
主。の。仕。し。亦。復。狂。せ。る。罪。の。て。亡。命。し。て。當。家。へ。來。れ。然。れ。件。の。大。阪。毛。野。の。栗。飯。原。首。が
送。腹。の。子。を。同。明。夢。義。士。數。人。あり。親。の。怨。を。雪。入。と。惜。々。地。不。縁。連。を。去。る。身。と。う。その。顛
末。と。知。る。の。あり。風。聲。這。里。へ。傳。え。り。縁。連。當。家。の。仕。し。御。信用。淺。く。な。れ。ば

言路塞りてその舊悪と云云と稟ま由の心あるも深死淵の臨むが如く薄氷
 氷を踏みて戦々兢々の思ひ已がかりし當家の御武運を不慮に縁連ハ那身の仇なる
 大阪毛野胤智とやらハ敷かれ又縁連の悪と資けハ猛虎既済一峯ハ俱小命と須
 是も那和議整定で人の下風立あむる當家の幸ひするも願ふ鼻祖の大神
 武武峯の神助多ク秋蟹目の目の祈るる湯嶋の神の加護ありて那奸佞を鋤れ
 迎高禄もて留めあり他も君の寛仁大度と感して忠義を盡ま下然る縁連猛虎
 們の士卒幾十名と喪ひあふとも損あはれとて益ありての謀を容れしめしめ
 も果は定正の奴れる敵耳と奇立くぞれ守如推參ハ後龜山縁連ハ那大阪奴ハ仇
 せハ復讐言の折もあるは我正使とて小田原多北條氏遣折這五十子より程遠か
 らぬ鈴の茂林埋伏して獨縁連のそるる副使并伴當們ハ大々たる敷果せし

阿容々々として擲捕らるる當家の威風衰へりとも是も隣國不侮られん憶ふ汝縁連が
 功と媚むおわらんぞらん然も思ひ始より何ぞ一言も諫さる目今那死と嘆く及びてその舊
 悪とのあまらるる叩他人の武勇稱へる君と否まる不義失敬其首退去と敦固ハ暴
 く持る鞭と振抗て兩三番撻ハ守如額破れて鮮血面と浸せども合する鏢ハ此
 由放さぬゆび鼓耳と勵てあま情君の御短慮微臣日屬縁連の奸佞邪智と知
 るといへどもこの非と咎あむ難ハ御信用深はより遠く他中られて甲斐多らんと思へん
 今今今朝も幸ひ縁連ハ人敷敷て忠臣これを歎くも君ハ死感ハ醒させぬ他
 與大阪毛野胤智をみたり擲捕せしと遂千金の死身と忘れて今危を臨むる縁
 まらざるも縁連ハ那大阪胤智ハ和漢ハ稀る是世の英雄也異姓の兄弟數人あり縁
 形小従小如相資ると縁より所このゆひ然らば又勢カあむるも悔りて強敵あり
 其の美を知り召れね一時の怨怒ハ任あひて連ハ我との折々の難義我及ん縁是亦

知るべきに微臣の職をさるるも君の御名代として士卒を爲て年那里小赴死て大阪を野們
が猶在るに誠意を守て俱く歩つべし若又那里に去りてその往方知れども速に士卒を分
ちて隈もく驅歩獵りて遇せしむとあるべきを。這義を許さるべきか。と涙を流し詞を
書して肝胆を吐く孤忠の諫言定正は之を耳に達して堪ぬ忍び小聲を惜まぬ守如堂の
諄言の折を聞く暇も。汝を死に小胆見の那大阪の助劍あれば定正軍將とてうち
向ふも捷々かかんと侮り思ふ疾奇怪然すも度を得ず本事をせん覚期とせよ。
と罵りさるる忽地の鐘を抗て礮と蹴る憐むべし守如の曾と蹴られて阿とをり死活の
知るま兵兵にて殿居小撞と俯らけ。定正ををもくも兵毎續けと駄馬の鞭を鳴
らしく突然と西の城門より走り去れ。従士卒二百名皆後れと身と起り奥小脱
鬼の勢ひをその朝日の高瞭らち出てたれ寄る濤は在る鶴の友とて竹の雀の家の
花號軍旗旗幟の色をえて競ふ馬の塵埃炯空を霞めててを死けり。

第九十二回
川を隔々孝嗣志を演ぶ
再説扇谷定正河鯉守如の諫言を怒り兼て鐘を揚て守如を蹴り西の城門より走
らる馬の前後も相従ふその隊の士卒三百餘名旗と杖と器械と見ゆて操小操をたをたる素
より軍勢の癖を敵の勇士が覚えあれも練の三個過ぎて原へ聊中小心せ先で軍隊伍を乱
あてと高瞭らち浦曲通小哉町彼地方易れ品草も後の驛路も尻尻鈴の茂林邊近
く程の前面に敏達樹植の内伏る一隊の敵あり忽地揚る奥の鼓聲研小响は響く頭れなる
その隊の軍勢但見る士卒二十四名去向の路を横断る小敵をれも喉を乱れを際して卒集鶴の
燕雀と搏つ勢ありその中二個の頭領黒草威の身甲小細鏢の掩膊士主頭の脛衣を長と西
刀と踏へる對の武具勇は九尺柄の雙枝槍と両の合を面魂凜々として四下を拂ふ威風も
對の両聲高く來れるその隊の大將の肩合の管領定正は往る丁酉の夏四月十三日池袋に戦

ひは汝があふ滅亡せられ煉馬平左衛門尉倍盛主の舊臣多。大山道即忠與が復讐の策一
 陣。這個異姓の義兄弟大飼現八信道大村大角礼儀が。這里小侯也知る。其技を勝負之決
 せよと指招に冷笑して大路も陝と立まける。定正これをもて。原來這地の狼籍見。御高縁連們を
 敵も果した。那大阪毛野とら。その名も。豊嶋煉馬の殘黨も亦那隊も存る。其邊草を見る
 ぐ。其の長の知る鳥合の小敵。躬方の身勢も比れ。看算もも足らぬ。推捕稠て敵も。連り不
 采幣も揮て。躬方。揚天將の下知。從先鋒の頭。地上織平未廣。仁本太。百餘個。雜兵を魚
 鱗小備。啞と噓て。三三王。敵も。登時現八。大角。躬方。信を。兵。母中。割られ。殺す。共
 受て一人も。西三人。當ら。入。乱れ。戦。介程。現八。地上織平と。餘。又。大角。未廣
 仁本太と。雌雄。争。戦。定正。後陣。敵。伏。起。先。大將。是
 其。打。粉。緋。糸。の。甲。火。秋。打。由。の。猪。と。掃。四。尺。子。の。大。刀。踏。廿。四。挿。中。黒。の。征。前。背。

白井又作
 井作
 古記の載
 同あり

助友の裏に畫れて我計畧然も。三年の執懐。不。至。れ。刃。受。を。罵。り。隊。勢。我。我。攻。立。れ。定。正。酷
 く。驚。び。て。原。來。敵。の。伏。勢。も。快。一。方。を。擊。破。り。退。き。と。喚。禁。る。聲。も。先。小。扇。合。の。主。卒。齊。一。驚
 慌。て。退。を。欲。ま。れ。後。不。道。節。の。勁。敵。も。又。進。ん。と。欲。ま。れ。前。大。飼。大。村。の。兩。雄。も。且。左。足。剛。々。な
 大洋。中。右。の。樹。木。隈。も。す。け。路。陝。く。進。退。便。多。前。後。の。敵。も。探。立。ら。せ。鼓。を。り。の。を。ま。る。け。是
 より。先。地。上。織。平。大。飼。現。八。と。鎗。と。合。て。小。雲。時。挑。戦。し。腕。を。衰。既。不。減。残。の。肩。ひ。於。此。に。い。ふ。小
 送。同。中。の。折。り。敵。の。伏。兵。の。後。方。も。起。り。ぬ。ら。程。を。あ。れ。後。陣。も。共。亂。れ。織。平。の。胆。落。て。引。外。え
 と。せ。程。の。現。八。咽。喉。と。刺。れ。仰。友。付。れ。死。せ。り。又。大。角。と。鎗。を。交。え。未。廣。仁。本。太。の。躬。方。猛。可。敗。走。り。地。上
 織。平。も。數。れ。れ。驚。馬。怕。れ。逃。せ。せ。大。角。送。さ。鎗。伏。せ。首。を。雜。兵。捕。せ。り。介。程。定。正。則。後。敵。不
 攻。敗。れ。既。危。な。り。有。係。主。の。命。代。之。死。す。兵。多。あ。れ。僅。一。方。を。殺。披。て。相。從。近。習。八。九



告

文英堂藏



文英堂藏

名馬の左右に成る。品草の之を走る程。道節は只一騎衆先。馬を馳して。其地を趕。馬を過す。聲を立て。管領定正。逢ふも。敵の背を不まする。けしを復せ。忠貞の。他は。征討に受て。て。と。辰す。を。吸。掛。て。前。給。近。く。隨。ふ。り。と。満。月。の。似。く。響。固。め。て。夫。般。草。火。く。標。と。射。る。修。煉。差。を。定。正。の。度。の。不。子。の。射。摧。を。る。並。則。咆。と。共。保。の。偷。縮。之。弗。断。離。れ。て。廣。地。上。未。遂。さ。る。定。正。吐。嗟。と。胸。を。潰。く。其。馬。の。俯。し。頭。と。抱。て。其。首。も。と。逃。走。る。道。節。を。不。遣。ら。ず。馬。小。拍。れ。趕。ら。る。勢。は。先。も。く。わ。さ。り。勢。は。虎。彪。も。用。る。如。く。然。も。四。個。の。近。習。の。海。悍。り。所。の。わ。ね。も。思。中。の。似。平。度。と。失。ひ。て。或。は。頭。懸。敷。も。落。され。或。は。深。瑛。の。堪。ぞ。て。仆。る。も。あ。る。所。も。あ。る。鮮。果。馬。蹄。漫。た。る。程。亦。定。正。之。虎。口。海。落。也。之。稍。品。草。の。原。を。走。る。け。り。休。題。更。詳。落。點。與。之。有。種。の。御。宗。道。節。論。を。那。隊。加。る。と。は。戦。飯。と。炊。と。與。ふ。と。留。置。れ。四。五。君。の。雜。兵。們。其。保。高。嶺。の。浦。の。船。在。り。既。く。定。正。此。か。り。隊。兵。許。多。

名馬の左右に成る。品草の之を走る程。道節は只一騎衆先。馬を馳して。其地を趕。馬を過す。聲を立て。管領定正。逢ふも。敵の背を不まする。けしを復せ。忠貞の。他は。征討に受て。て。と。辰す。を。吸。掛。て。前。給。近。く。隨。ふ。り。と。満。月。の。似。く。響。固。め。て。夫。般。草。火。く。標。と。射。る。修。煉。差。を。定。正。の。度。の。不。子。の。射。摧。を。る。並。則。咆。と。共。保。の。偷。縮。之。弗。断。離。れ。て。廣。地。上。未。遂。さ。る。定。正。吐。嗟。と。胸。を。潰。く。其。馬。の。俯。し。頭。と。抱。て。其。首。も。と。逃。走。る。道。節。を。不。遣。ら。ず。馬。小。拍。れ。趕。ら。る。勢。は。先。も。く。わ。さ。り。勢。は。虎。彪。も。用。る。如。く。然。も。四。個。の。近。習。の。海。悍。り。所。の。わ。ね。も。思。中。の。似。平。度。と。失。ひ。て。或。は。頭。懸。敷。も。落。され。或。は。深。瑛。の。堪。ぞ。て。仆。る。も。あ。る。所。も。あ。る。鮮。果。馬。蹄。漫。た。る。程。亦。定。正。之。虎。口。海。落。也。之。稍。品。草。の。原。を。走。る。け。り。休。題。更。詳。落。點。與。之。有。種。の。御。宗。道。節。論。を。那。隊。加。る。と。は。戦。飯。と。炊。と。與。ふ。と。留。置。れ。四。五。君。の。雜。兵。們。其。保。高。嶺。の。浦。の。船。在。り。既。く。定。正。此。か。り。隊。兵。許。多。

品草鈴の茂林の方馬を走らせし軍装を看ると分明なり。那裏の戦ひも敗れて敵は走るとか。雑兵の逃るる。慌しく五十丸を走る。有種はこれを見て。吐裏も思ふ。料も優る。けの戦ひ定正が。城より出て。躬方の勝利を。大山主の誠あり。我安然と。這船に成り。這奴。們を敷き。あつて。武士する甲斐も。あつて。死敵一人も。擇討敵。捕て。我も亦亡君。亦。致。ま。り。と。尋。思。と。あ。つ。信。々。と。雜。兵。并。不。戦。ひ。と。好。む。船。主。們。の。意。衷。示。し。武。具。着。せ。て。悄。々。地。陸。を。登。る。その隊の兵卒七八名程。樹蔭に立。躲。れて。落。る。敵。と。族。々。在。り。信。る。べ。し。知。り。も。免。扇。谷。定。正。僅。小。残。る。近。習。と。俱。し。品。草。の。原。と。走。る。程。亦。亦。復。安。り。と。頭。れ。る。一。隊。の。敵。の。先。手。找。し。一。個。の。頭。人。を。鎗。に。即。間。と。合。組。し。て。耳。と。串。く。聲。高。か。り。來。る。は。是。定。正。様。着。る。鎧。の。威。毛。と。兼。た。馬。也。我。と。知。ぬ。先。君。豊。嶋。勘。解。由。左。衛。門。尉。信。盛。朝。臣。の。奉。為。不。死。の。雪。入。覚。期。と。せ。と。喚。り。ら。逼。近。つ。て。面。も。毛。心。を。蒐。れ。定。正。上。徒。驚。愕。慌。て。敢。亦。勝。肩。と。好。む。且。戦。ひ。且。走。る。と。有。種。は。隊。兵。を。烈。く。找。め。て。息。も。卷。れ。痛。瘻。を。負。て。走。難。る。敵。面。を。撃。捕。り。け。り。信。り。れ。ば。も。定。正。僅。小。残。り。免。れ。て。

高嶺を登りて落ちて來り初て吻と息を絶て後方迫るる相従ふ近習の大小を路を截りて
二階堂高四郎三浦三吉郎と喚ぶるは這西個の近習を死するもはるるも他の數人所痛癢
履て全身鮮血淋漓一か定正憶を嗟嘆して御前我一は怒るの堪むきを好そ河鯉權佐
守如の諫を聽て去るの期小賢今百遍悔も申非き快五十子の城の遠く寄る敵と防んぞ
又九町走りて五十子の城の黒烟空を焦して兵火既の焔く主従是又城を以て那の什麼とぞ
てふ呆れて馬を駐めり浩然現大角の敵の大將を撃ち捕んと猛卒十餘人を相俱くと捷徑を経て
去て去る目今定正主従三名が停立するや又て推捕綱を撃ちて定正必死の空躬既免るもわし
二階堂高四郎三浦三吉共保不定正馬を立塞り敵を柱を現大角の敵を介程不定正
近着敵の雜兵を殺拂り路傍の阜小馳走りて腹を斫りて覺期の折る忽然とて一隊の軍兵
阜の後より走らりて執子餘人をも新隊の如く殊亦討つた只一挺の轡を雜兵
名早なるを先小幡と持て河鯉權佐守如ら六太を寫りて定正を捉えりて原來敵の

りづの我生うと不勝の勢阜より馬と乗下りて定正二騎あり守如救を喚りて其勢の中馳
入りける登時現大角の三浦三階堂を撃ち捕て又定正と趕せり敵を援の兵を去りて主君守
護ある所の中十四五人の定正を從て柴浦のく走り去りて餘の轡子と小川の立前面より知
るて救せんとて和せり然れ現大角の敵の援の兵の來るを怖る小あはれも件の新隊の頭人豫
言知る守如且轡子より乗りて是かを詭の計あるべしと尋思りて躬方と林示を撃ちて
走れりれれ甘きあらしも猶豫あり信りて程の道が即ち定正の近習四名と一個も漏れぬ果と
且射落し定正の死を雜兵所持するを直趕り原を來り折落點とて有
種が敵の敗北を精しく船より定正の去向を渡り攻戦せし後類と撃ち捕りて不定正と趕
んとはる小料も萬道に及大坂毛野亂智の御前社小文吾們と共侶小西も林樹原に退りて料
を助剣せし縁由と初て所ふ昨日湯嶋の社頭で守如と密談し道即ち倫聞せし不意議
幫助の及道即ちの折をも君父の仇を定正を撃んと欲する隊配り又大村大角礼慶

同因果の武士さるる。都て送る。知る。感嘆の外。鈴の茂林の東方。常て。迫る。國の聲。
 ち。原來大山の討り。幸子の城内。加勢の士卒。と。躬方と。雌雄。
 侶。力と。我。せん。三人。連立。て。程。躬方の。戦。勝利。道。節。現。八。大。角。門。
 其。首。在。る。且。五。十。子。の。城。も。討。る。大。將。の。家。臣。の。家。臣。の。家。臣。の。家。臣。
 其。戦。の。光。景。と。地。方。の。浦。人。の。歩。知。る。俱。備。た。る。と。大。々。と。逃。る。敵。と。逐。躬。方。の。迹。を。
 躬。方。の。雜。兵。も。多。く。感。の。地。方。の。取。合。け。の。今。程。道。節。有。種。の。定。正。援。の。兵。と。
 去。り。那。里。不。留。留。敵。あり。と。現。八。大。角。が。報。を。受。て。選。恨。小。堪。を。中。道。節。即。怒。れ。
 奴。們。何。ぞ。の。あ。わ。ん。快。蹴。散。ら。せ。定。正。捕。逃。し。を。趕。蒐。と。罵。り。泥。障。を。蹴。立。て。馬。を。
 あ。と。現。八。大。角。俱。不。禁。め。喘。り。あ。る。大。山。王。敵。も。漏。れ。天。之。命。を。那。果。不。和。敵。の。頭。人。を。
 修。せ。る。河。鯉。守。如。る。小。幡。の。文。字。を。分。明。且。戦。の。場。小。臨。を。轆。子。も。兼。る。
 知。る。を。我。も。時。宜。不。多。た。の。と。言。葉。を。く。諫。と。道。節。聽。を。頭。と。掉。を。

守。如。れ。と。さ。る。と。怖。る。と。あ。る。と。那。轆。子。と。早。や。昔。蜀。漢。の。趙。雲。が。躬。方。の。小。勢。小。慌。を。
 廣。く。城。門。を。推。開。せ。て。魏。の。大。軍。を。退。け。る。計。策。亦。似。て。る。時。の。必。失。ふ。其。首。放。さ。る。と。
 現。八。大。角。の。へ。ら。と。莊。介。と。小。文。吾。も。俱。小。道。節。と。推。林。め。る。云。と。諫。る。程。小。毛。野。も。亦。道。節。が。馬。の。
 真。道。不。找。と。喃。大。山。主。小。弟。は。大。阪。毛。野。淵。智。之。昨。日。湯。嶋。の。社。頭。と。料。對。面。を。
 認。り。折。れ。七。傍。の。人。の。あり。と。和。殿。あ。ん。と。猜。し。る。名。生。も。遂。に。別。れ。死。る。に。那。折。河。鯉。氏。を。我。
 密。談。を。偷。聞。せ。り。と。和。殿。の。さ。る。餘。も。諸。大。士。の。都。助。も。七。父。の。仇。を。報。復。る。身。の。終。に。萬。謝。も。又。何。足。ん。
 我。の。さ。る。と。和。殿。の。亦。君。父。の。仇。定。正。主。を。敵。と。せ。れ。軍。界。精。妙。思。以。の。隨。敵。屠。り。七。勢。い。あ。る。及。
 び。る。吉。又。皆。意。表。出。さ。る。と。感。感。る。あ。る。あ。る。あ。る。と。吉。又。情。を。思。以。る。我。復。讎。の。
 便。宜。の。ゆ。え。和。殿。の。折。を。あ。り。も。河。鯉。氏。が。主。の。側。を。奸。佞。龍。山。縁。連。門。を。除。く。と。相。計。ひ。た。は。
 その。孤。忠。も。あ。れ。我。們。は。棟。梁。と。せ。小。弟。の。始。も。和。殿。の。軍。議。を。知。ら。ず。と。尚。和。殿。と。共。信。
 定。正。主。と。敵。と。走。ら。る。河。鯉。氏。を。結。せ。不。忠。の。人。と。る。ま。似。る。然。と。小。弟。重。以。和。殿。の。戦。の。期。

後のちに方の僅よ面の會ひまるるといふに、侍のれが和の殿のこまれかまれ小の弟のけの戦ひ以て定まるるといふに、
から然らずに況ん河の鯉の氏を是の義の赴く所として和の殿と疎る思ふはらしめ、
らん定まるる正の主の既に走る也ともいふに、及んばらしめ然らしめ今も也と、
那の孤の忠を空にうせざるも武の士の情をれも他も敷きても、
怯しといふに誰ものころに這つては進退を定める後悔あらずに、
諫められば只の管の勇を道の節も言の道の理も通られて又ももろりと、
現に大の角の毛の野を談論としては、
大の飼現八の信道大の村大角の礼儀也と、
御人を隊兵を千許名を從へ程よはら樹蔭に伏臥しては、
那の助劍們を殺散らしては、
城よりもちよりと、
鈴の茂林邊に來り、
更も亦も大の山の與に寄り敵と戰ふ、
北にとしては、
捷徑

剛の才は這り果るといふに、
我の復讐言の本意といふに、
狄の九の慮の前知也と、
名告といふに、
甚しうけ、
此の馬の思ひ、
地敵の隊位中、
俱に這り方へ、
女の英は、

八六九... 女... 英...

復く馬より降りて下立て一箇の雜兵を捉て毛野と俱に這方の岸に離れ立て各告ぐ。佐太郎孝嗣
 と對面を當下孝嗣阿容る色を毛野道即們より對ひて小子尚弱冠の身省主親小代と豪
 傑們と今問答不及と敢て求るふあらず争向せ見權依の今朝も猛物痛の病着あり行歩
 辯舌不如意なれば則轎子に扶乘しと昇くと俱に來る言空りひと今此處に隱れ由も言
 親の中心信他の置るれ御高君夫人解虫目前の内命を宣示奉る當家の與大毒毒煉て君を感
 困と嘗る那縁連們的奸佞人をいを除んと思ひ折る昨日湯嶋の社頭を料も大坂氏の義我彼劇
 孟判荷に勝れる言家傑多と知覺し情々地は胸臆とち諦那縁連們を較る果さるけお使
 宜と相諱ひし豈思んや縁連大坂氏と與し親の仇をりたれども異議もく求引れははる
 支の顛末も子も親の密語もより知らざれば今諒もく偏ん必要す然るも我親の思謀果
 たるる圖の中も大坂氏を借りと君の與小毒毒と除れその物にたれども我君の縁連は罷
 任の惑ひ醒るるもその報ありよる奴等堪大坂氏をみづろ搦捕んと士を十二百餘名と率々

猛可出馬の準備あり親の竊の敬馬息ひてそれとる小利害の演り連の小諫直せし君侯震怒
 酷く騎馬の鐘の折檻を親守如その殘重今る不臥轎子も在る徳而我君出馬の後敗
 軍の雜兵脱れかたを支徳々と報し城内の士卒駭謀して快加勢の兵をわすれんと相罵り
 準備もとも不紊せ折大山氏們的義兄弟大塚信乃成考とせざる勇まの為謀られて五十五城を
 火攻せられ烈に魔風をまきり城廓灰燼するあり敵の隊勢をなす躬方の猛火を辟易あて
 敷されるの跡も餘の士卒後にも咸落して往方を知る者折る我の胸痛より臥て存り忽
 地の身と起し小子と喚迫着け大坂氏と密謀の趣箇様々と解し七我初の胤智と義依の豪傑
 この思ひ不誰り知るべ他も亦我君と仇を寛重嶋煉馬の殘黨を大山忠與とせしが支當處で
 我機密と忠與們の報知を俱に謀り然る館の大支及て遂に城を抜れられ我忠心の還る
 あり不忠なるぬ縁連們を除くと宗とも主君の敵を較るし枝を隱し花の散角を折る生之殺
 主との副語もも方より然とて汝死と急ぎ身の中も戰場走らば我の危殆を救ひし

尚又その期は遇ふ。便提と旋り。胤智と刺錯之其首を死ね。親の過を聊補ふ。この
餘のる。箇様々々と。教訓丁寧なれば。小子の意は。然も親と棄置して。燔死す。は。あ。あ。あ。
ぞ。轎子も扶衆せ。思義の士卒千餘名を。謀一合の轎子と昇して。這里小走の多。思ふが。我君の必死を
救ひま。あ。あ。あ。我親子。名。此の雜兵を従て。敵を防ぎ。我君を後安く。落し。あ。あ。あ。思ひ決り
今も。只死と極中を存け。和殿の亦左右を。鬼は。後れて。大坂氏。大山谷の軍議を知。初
對面。言の顔未。這里。聊恨と釋ふ。似れ。言。大出。我親と
大阪氏。密談と。隊配。知。統の隊兵。大敵と。向て。益死と
親の疑惑。承。先。一。義。及。の。感。毛。野。道。節。胤智の。答。等。を
ら。領。如。右。思。定。以。我。の。憶。湯。嶋。の。社。頭。徘徊。那。密。談。偷。听。の。折。生
て。大阪。の。面。認。是。宿。因。の。係。所。異。姓。の。弟。兄。あ。あ。あ。思。合。せ。證。も。あ。復。健。言。趣。を
義。兄。弟。們。小。告。知。豫。毛。野。と。相。識。する。大。田。大。川。二。入。を。り。情。々。地。小。縁。連。小。助。劍。の。奴。們。を。防

せ。の。便。宜。小。我。か。り。大阪。五。十。子。の。城。内。少。え。加。勢。の。士。卒。と。あ。あ。あ。短
兵。急。小。城。と。拔。死。仇。を。屠。り。亡。君。亡。父。不。向。を。胸。の。軍。議。と。定。め。大。塚。大。飼。大。村。們。俱。お。着
好。の。兵。を。従。て。便。宜。の。地。方。小。隊。配。ら。城。の。虚。実。を。現。し。思。ふ。倍。て。造。化。精。妙。定。正。あ。あ。あ。大阪
們。を。追。捕。へ。ん。そ。士。卒。を。漫。小。城。より。あ。あ。あ。因。て。猛。可。部。易。て。大。塚。信。乃。小。城。と。攻。ま。酒。家。を
大。飼。大。村。と。東。西。不。立。不。意。不。起。と。管。領。と。挾。ま。て。攻。撃。か。か。思。ひ。伏。多。勝。軍。を。我。定。正。射
た。れ。も。その。前。小。兜。と。權。左。の。裏。缺。さ。り。盛。と。母。て。仇。の。命。と。免。れ。る。信。乃。大。阪。の。あ。あ。あ。我。軍
思。を。知。ゆ。り。あ。あ。あ。他。の。他。が。難。言。と。敷。て。河。鯉。氏。と。約束。と。違。へ。我。の。我。怨。と。雪。ゆ。思
と。孝。と。を。盡。す。の。欲。ま。所。各。異。と。恨。り。我。馬。疲。れ。定。正。を。漏。し。る。あ。あ。あ。透。さ。し。起。る。東
ま。と。あ。あ。あ。敵。加。勢。の。頭。人。肩。谷。の。大。忠。臣。河。鯉。權。佐。守。如。と。高。せ。小。幡。小。泉。兄。弟。大。阪。們。が。云。云。と
議論。小。時。の。程。り。い。は。せ。と。思。ひ。仇。の。命。運。ま。盡。さ。る。あ。あ。あ。定。正。走。る。あ。あ。あ。和。郎。們。親
子。と。殺。る。ん。要。す。と。主。の。迹。を。其。か。て。その。投。き。と。あ。あ。あ。と。考。嗣。ら。る。と。言。は。れ。る。あ。あ。あ。我。主。の。明。辨。那。疑。の

釋れども然も義理と連たゞる豊嶋と煉馬の人々野心ありて討果され獨我君の三あり
山内の管領家も同意なく合戦あり和殿の只管我君を仇とて執念深し恨す是甚
也と詰れば道即冷笑ひてそらるる豊嶋煉馬の滅亡の當時定正の軍界より巨用持資
大將より山内顯定も十葉津宮と將とて加勢の軍兵ありとも主客の執り同しは恨まら
肩谷の正敵も山内の傍仇也昔唐山晋の趙を恤し魏氏韓氏と謀り合はれ敵を滅し
あつた豫讓の知伯の仇獨趙氏を仇とて魏を韓魏とて怨とせば是趙氏の正敵也韓魏を傍
仇也我定正と仇とて山内を怨とせば支情の相似し和郎們が知るべきも毛野の推排
守如王の馮我を我の面と認め敵讎を斬り殺し趣を既し會得せし上の餘談を以これ
大山の方人として居るといふ和殿の大人が對面して是等の意味を報せし再會の送恨も病
臥の對面不便ともいふ許しぬと他事ありて孝嗣の異議及ぼるに急後方

なすての轎子と這方と招く雜兵ありて轎子と拾ゆる川畔近き屏居ち登時佐太郎孝
嗣の大阪毛野より對面して請うりの推排も親と這方招きさら実病困の爲体おしを
許しぬり。おのれ軀を轎子の引戸をを推開くと毛野道節の共侶もを斬り守如の腹極
破り亡敵の衣裳の鮮血を染めし思ひに死すも毛野は道節即ちおのれを斬りし
と共おのれも支回し詞も小座時より登時河鯉孝嗣の落涙を振致し唯大阪主親
自殺の計りしまの若駒の恨もよなり又只我父の事を蟹目前も愁ふ奸佞人們を誅せし
守如をあらわして出處不定の坐敷を討つて瀟々として遠て敵の便宜となり
君の危窮不及を以て刺城を攻破し執の路も我君に向き面する切ら君を死して
我這赤心をも後小志知せまるとして刃お伏て果死す夫人の終焉を我身にとりかかると
俱死すも多し親の遺言重ければ蟹目前の死骸を先轎子に乘せしとす卒に
謀り煙お紛れ後にも辛くも死し却其後不親の亡骸も火中お棄るの惜しき亦

轎子こし不な得え一ひと乗のりし。早はやと這こ里りを走はりけり。亡な骸がらと我わが君きみの父ちち馬うま前まへと父ちち手て共とも侶りのついで屍しかばねを曝さらし
 是こゝれ是こゝれ切きてのついで思おもひのついで達たちも約やく束そく違ちがひ大おほ阪さかま貳ふたる死し心こゝろをし知して初はじの恨うらみを悔くむ
 欽あつくも我わが君きみの危あやふ窮きうと救すけひをし是こゝれ是こゝれ孝うやまつ嗣ついで功こうをし死してのついで後のちも敵あいつの英い氣きを折おけりある親おやの
 忠ちゆう那な死し甘あま孔明けいめいが生なる仲なつ達たを多おほく走はりけり。といひて傳つたへ唐たう山さんの諺ことわざを及およぶもその子ことその尉ゑいの
 よよららるる死しの中なかもあありけり。父ちちをし既すでに書かけぬく交まひも實まこと果はる敵あいつも理り義ぎ不ふ賢けん賢けんの諸しよ人にんと刃やいばを
 交まへるる素もとより願ねがふ所ところ也なり思おもひの隨したがふ戦いくさ殺ころす親おやの送おく訓しんを稱なづふ。君きみ辱かたじけない時ときに臣おん死しましといふ小こ聖せい
 賢けんの教おしえを恥はまるるもああり。卒つひに這こ方かたより渡わたりて其その方かたより鬼おにりりやといひ雌め雄ゆうと決きむ詞ことば雄ゆうと
 多おほく死しと急いそぐ忠ちゆうと孝うやまつと歎なげかす日本にっぽん魂たま深こほく那な親おやかして去この子こも實まこと可あ惜な後のち生なる今いま殺ころす果はる何なにの
 其その健けん氣きをし愛めふ毛け野の道みち節ふしに倒たふれしる望のぞみかし戦いくさを推おし辞はりて去こるる人ひとは子こを
 感かん嘆たんの外ほかをしけり。其その段たんの盡つくむも楮かみ數かずを不ふ定じやう限げんある卷まきを更さらて這こ次つぎを解とけんと聽きぬか。

南總里見八犬傳第九輯卷之一終

